

協力協定団体ネットワーク会議の開催について

副理事長 岩田喜美枝

【開催の経緯】

2015年2月14日(土) 婦選会館において日本協会の総会が開催されましたが、引き続いて同日の午後、協力協定団体ネットワーク会議が持たれました。これまでのネットワーク会議は限られた時間の中で、日本協会からの伝達が主になりがちでしたが、今回は協力協定団体の活動の活性化のために、相互の経験交流や情報共有を目的としたものでした。また、UN Womenとの新しい承認協定の締結を控え、協力協定団体の活動の今後のありかたを考える機会でもありました。

北九州、大阪、多摩、よこはま、東京、さくらの6団体からの17人と、本部からは有馬理事長を初め、理事・アドバイザーが出席しました。3時間という長い時間をかけ、また、口の中になっての話し合いであったことから、参加者からは、このような機会を持ったことについて、評価をする声が多数聞かれました。

【各協力協定団体からの活動報告】

各団体からの2014年の活動報告がされ、それに対する質疑応答が活発に行われました。各団体の活動の特徴としては、次のとおりです。

北九州：バザーの実施、役員構成団体がしっかりしていること。

大阪：映画会(「ペアテの贈りもの」)の開催、タイのスタディーツアーへの参加を通じて若い会員が増えたこと。

多摩：モンゴルの女性が製作したキルトの販売、チャリティーコンサートの実施。

よこはま：バザーへの参加、ショップでの物品の販売、週2日の有給職員の配置。

東京：インド、フィリピンの物品の販売、学習会4回、チャリティーコンサート、ドキュメンタリードラマ上映、会員拡大の努力。

さくら：募金箱などの寄付活動、講演会の開催。

【ネットワーク会議開催について意見交換】

今後の開催のありかたについて意見交換を行いました。地方開催の場合は、開催地の会員が多数参加できること、開催地の団体の活動実態を他の団体がよく学べることなど、その意義が認識されると同時に、開催地の負担を考慮すると、当面は東京で総会後に開催するという今

年のスタイルを継続してはどうかとの意見が多数を占めました。

【協力協定団体を増やすことについての意見交換】

協力協定団体を増やす必要があること、過去の団体設立は北京会議への参加、海外のスタディーツアーなど何かのきっかけがあったり、女性センターという母体があったこと、今後の取り組みとしてはゾンタ、ソロプチミスト、商工会議所女性部などへの働きかけも考えられることが話されました。

【活動についての意見交換】

①グッズの販売について

グッズの仕入れや販売で各団体が協力できないかという問題が提起され、各団体がどのような協力ができるか、どのような協力をしてほしいかについてアンケートを実施することとしました。

②海外の支援先へのスタディーツアーについて
新承認協定の下での活動としてスタディーツアーは認められるのかという質問が出され、これについては日本協会でも検討することとしました。

【その後のフォローアップ】

4月の理事会では、物品販売についてのアンケートの内容を決定したこと、海外の支援先へのスタディーツアーは協力協定団体の活動として認められるが今後は事前に日本協会への届け出を要すること、次回のネットワーク会議は来年の総会の日曜日の午後開催することが決定されました。



ネットワーク会議の司会を務める岩田副理事長

第59回国連婦人の地位委員会(CSW)会期中に開催のNCミーティングについて

理事 目黒依子(国際担当)

第59回CSWは2015年3月9日から20日まで国連NY本部にて開催されました。CSW会期中に例年開かれる国連ウィメン国内委員会(National Committees, 以下NCs)の会合は、今回は3月13日10時から14時に国連ウィメン(UNW)本部で開催されました。開会・閉会を除く実務セッションが7つあり、次回NCs会合開催関連以外のセッションで、事務局長との対話および本部担当者による各テーマに関する報告では、質疑の時間を十分とる時間配分の構成で、司会のA. de Jong氏は、昨秋の東京グローバル・ミーティングの素晴らしい会議の形式に倣ったものだと言っていました。

P. ムランボ・ヌカカ事務局長は、2015年[北京+20]という年が12重大問題領域の議論に戻るのではなく、CSW政治宣言&SDG(持続可能な開発目標)(2015/12)という2030年に向けたスタートの年であることを強調し、気候変動や自然災害の国連会議や安保理決議1325号15周年会議など今年のイベントに関与すること、世界の変革に女性だけでなくすべてのアクターに関わらせるための活動を強化するために男性と次世代の参画を促進する、これまで以上に必要な資金調達に努力する、などの方針を述べ、そのためのキャンペーンとして、HeForSheやPlanet 50-50 By 2030など焦点が明確なアプローチをとると説明しました。HFSの特別版として特に影響力のある男性を巻き込むImpact 10x10x10(国家、企業、大学のトップと契約)を、50-50 By 2030は、ジェンダー不平等の終焉を2030年とする、という期限をつけての取り組みを促進するという戦略だそうです。50-50については、CSW会期中に開かれたサイドイベントに出席した国連事務総長も発信していましたし、CSWで合意採択された政治宣言にも含まれています。

本部からの主な報告内容は以下の通り。

①UN Womenのプログラム・NCsからの支援:

- ・ドナー国評価において、費用対効果では国連全機関中UNWがトップ
- ・NCsからの支援はノン・コア向けが多い

- ・エボラ熱対策でUNWは大活躍
- ・UNWは現地のニーズ・ベースを最優先方針とする
- ・6月の理事会での焦点はマネージメント・レビュー

②基金:

- ・暴力撤廃信託基金について、NCの継続的な支援により当該政府支援が復活した事例もあり、謝意が表明された

③企業との連携:

- ・戦略的パートナーシップとして、長期(3~5年)、多様な資源(個人、企業、財団等)、個人は重要
- ・集金方法—デジタル、直接マーケティング
- ・ドナーへのサービス、開拓
- ・企業とのパートナーシップを表す新ロゴを検討中
- ・倫理原則—ジェンダー平等の宣言 → WEPSに署名

④持続可能な開発目標(SDG):

- ・リオ会議でUN Womenはジェンダー関連17目標を合意文書に導入

⑤北京+2015:

- ・SDG、気候変動、災害討議にジェンダー課題をインプット
- ・168 国別報告
- ・国連総会時、9月25日にグローバル・リーダー会合開催

⑥安保理決議1325号15周年記念:

- ・10月、国別動向計画のレビュー&フォローアップ
- ・1325号に関するグローバル調査進行中

⑦次回NCミーティング開催:

ノルウェー(2015年8月24日~26日)



第3回国連防災世界会議に出席して

理事 田中由美子

第3回国連防災世界会議が、3月14～18日、仙台市で開催され、「仙台宣言」と「仙台防災枠組2015-2030」が採択されました。この会議には187カ国の代表者、国連機関、NGOなどから6,500人以上、イベントや展示への参加者を合わせると約14万人が参加しました。開会式では安倍首相が、災害に負けない「強靱(じん)な社会」を構築するために、今後4年間で40億ドルの国際支援と、4万人の人材育成をおこなうとする「仙台防災協カイニシアティブ」を発表しました。



「防災における女性のリーダーシップ」シンポジウム

さらに、14日におこなわれた、防災分野での女性のリーダーシップをテーマにした首脳級対話で、安倍首相は基調演説で「災害に立ち向かうために女性のリーダーシップは不可欠だ」と強調しました。対話では、政治や意思決定の場に参画する女性を増やすことが災害に強い社会につながるとの意見が相次ぎました。首相は、防災にお

ける女性の役割の重要性を強調し、災害犠牲者を減らすために人材育成策として防災分野の「女性のリーダーシップ推進研修」をおこなうと述べました。

UN Women本部や国別事務所などからも6名のスタッフが会合に来日し積極的に参加・発信しました。私は、3月14～18日、



エル・パーク仙台 シェリル・アンダーソンハワイ大学教授で開催されたパブ

(ジェンダーと防災研修について)

リック・フォーラム「女性と防災」に参加し、防災・減災における女性のリーダーシップ、男女共同参画の視点に立った災害に強い社会作りなどのシンポジウムで東北の女性たちの生の声をたくさん聴くことができました。女性たちが、東日本大震災という災難を好機に転換し、潜在的にもっていたリーダーシップ能力を顕在化し、地域内外さらにはグローバルなネットワークを構築し、経験を積極的に発信し社会を変革しようとしてきたことがとても印象的でした。

ミシェル・バチレチリ大統領よりメッセージ！

理事 本田敏江

宮城ジョネットの草野祐子さん宛にミシェル・バチレチリ大統領よりメッセージが届きました。草野さんは3月14日～18日まで仙台で開催された国連防災世界会議のパブリック・フォーラム（地方自治体やNGO等が主催し発信する場）でパネリストを務められました。パネルのタイトルは「脆弱性の高い多様な受益者による防災主流化の取り組み」でした。バチレチリ大統領が2012年にUN Womenの長として日本を訪問された時に草野さんが日本協会主催の歓迎レセプションで被災女性の状況について話され、被災地からの品物をプレゼントされたことは覚えていらっしゃる方も多いと思います。この関係でぜひ自分のセッションにバチレチリ大統領のメッセージを頼んでもらえないかと有馬理事長に連絡がありました。どんなに良い仕事をしていても一介のNGOの長に大統領がメッセージを寄せるなどということはとても難しいと誰もが思ったのですが、なんと会議直前にメッセージが届いたのです。

メッセージは防災とジェンダーの関係に触れ、災害のリスクを減らすには女性を計画段階から参加させることがいかに重要かを述べています。また草野さんが被災者にもう一

度生きる喜びを感じてもらえるよう、被災者間の連携をすすめていることを賞賛しています。またチリも自然災害が多いことから被災者への深い共感も寄せられています。

聴衆の中にはバチレチリ大統領のことを知っている人も多く、メッセージが届いたことに驚き、また大変喜んでいただということです。メッセージがただの公式な挨拶を超えて心の糸に触れるものであったことも喜びを倍増させました。まさしくこれから生活を再建していこうとしている人たちへの大きな励ましとなったことと思います。弱い人に心を寄せられる大統領の人柄に改めて感銘を受けました。



宮城ジョネットがトレーラーを利用して設置した女性の居場所兼オフィス(右)



坂東眞理子氏

日本の女性政策の推進に国連が果たした役割は大きいものがあります。1975年の国際婦人年、差別撤廃条約とその批准のための法的整備（その中で雇用機会均等法や家庭科の男女共修が実現しました）、1995年の北京会議、それらは総理府（内閣府）で仕事をしてきた私自身の人生の幾つかのシーンと重なり感慨深いものがあります。2010年それまで独立して仕事をしてきたDAW（国連経済社会局女性の地位向上部）、INSTRAW（国際婦人調査訓練研修所）、OSAGI（ジェンダー問題事務総長特別顧問室）、UNIFEM（国連婦人開発基金）など国連の女性関係の機関が統合されてUN Womenが誕生しました。

その任務としては女性の地位委員会などの政策形成、国際基準づくりをサポートする、各国政府や市民社会と連携して女性の地位向上の技術的・経済的支援を行う、国連諸機関の平等への取り組みをリード・モニタリングすることなどがあげられています。

日本でも多くの市民団体、女性団体がユニフェム日本国内委員会に協力して募金活動などさまざまな活動に自主的に取り組んできましたが、国連の動きに呼応して国連ウィメン日本協会として再スタートしました。その後引き続き起こった東日本大震災に際してはたくさんの応援が寄せられ、また日本の提案した国連の「災害とジェンダー」の決議案も採決されました。

日本においても女性の貧困、女性に対する暴力は後を絶たず、政策決定への女性の参画も遅々として進んでいません。なすべきことは山のようにあります。一方で世界に目を向けると紛争における女性への暴力は深刻であり、貧困の中で最低限の食料や医療や教育にさえアクセスできない女性がたくさんいます。

世界各国で女性を取り巻く環境は違いますが、ジェンダー差別は共通の課題です。自己責任の殻の中で孤立するのではなく、お互いを支えあい、励ましあっていかねば課題は解決できません。女性は自分たちの地位や生活の向上を求めるだけでなく、この地球がより住みやすい場となるよう協力していくことが必要です。その中で国連ウィメン日本協会が大きな役割を果たされることを願っています。

国連ウィメン日本協会の活動から

承認協定の下、新たなステージへ！

理事 三輪敦子

5月21日（木）、UN Women本部と国連ウィメン日本協会との間の承認協定に有馬理事長が署名しました。承認協定は、国連ウィメン日本協会の使命、任務、責任を記した、私たちの活動を導く基本の文書です。承認協定の内容を簡単にご紹介します。

1. 前文と73の条文および添付文書I、II、IIIから構成されています。
2. 承認協定により、国連ウィメン日本協会は、日本における唯一のUN Womenの国内委員会（公式支援窓口）として、UN Womenに協力し、その活動を支援します。
3. 具体的には、以下の二つの活動をおこないます。
 - ① UN Womenの使命や活動に関する広報と啓発
 - ② UN Womenに対する寄付・募金の呼びかけ
 これらの活動をおこなうにあたっては、市民、企業、学校等、様々なパートナーと連携・協力することが求められています。



承認協定に署名する有馬理事長と日黒理事

名称とロゴの使用については従来以上の厳格さが要求されていて、また、グッズ作成の際には事前にUN Women本部の許可を得る必要があるなど、国連ウィメン日本協会に求められる義務や責任の大きさも改めて認識しています。

新しい承認協定の下、UN Womenへの協力を通じて、ジェンダー平等と女性のエンパワメントにさらに貢献するために、創造性を発揮し、工夫をこらした魅力的で効果的な活動を展開していきます。

NGO院内集会を共催して

理事 本田敏江

2015年3月20日に5つのNGO（国連ウィメン日本協会、女性人権機構、自由人権協会、日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク、国際女性の地位協会）が共催して、衆議院議員第2議員会館で院内集会を開きました。タイトルは「北京世界女性会議から20年：その成果と女性の人権をめぐる課題」でした。UN Womenからは仙台防災会議に参加した6人のうちの3人が参加されました。集会は有馬真喜子国連ウィメン日本協会理事長のあいさつで幕を開け、まずUN Women本部人道部長、ブレルタ・アリコ氏が「北京+20：UN Womenの取り組み」という題でスピーチされました。

アリコ氏はこの20年間で進歩が見られた分野として法律上の男女差別撤廃、女性・女兒への暴力への対処、女兒の初等・中等教育へのアクセス、避妊へのアクセス、国会における女性代表の増加などをあげられました。一方において男女平等を求める動きの掘り下げ方は足りず、非可逆的なところまでにも達していないと指摘されました。停滞している分野としては女性・女兒がまだに受けている複数の差別、法律、特に家族法における差別、女性の昇進の可能性の低さや賃金格

差、女性に集中する無給の介護、女性・女兒に対する暴力などをあげられました。そして2030年までには男女平等を達成しなくてはならないと強くアピールされ、その達成度を測る基準を詳しく述べられました。

次にCEDAW（女性差別撤廃委員会）のナフラ・ハイダー委員はCEDAWの歴史、メカニズム、この20年の成果と課題について話されました。最後はこの2月にCEDAW委員長に就任された林陽子氏が男女平等を達成していく上でのCEDAWの役割の重要性について話されました。この会合に参加して最も印象深かったのは、3人ともがISのような暴力に直結した極端主義、原理主義の女性への脅威に言及したこと、林陽子委員長への期待の高さ、北京会議に参加以来様々な形で女性の権利獲得に邁進してきたNGOの熱意でした。



林陽子 CEDAW委員長

国連ウィメン日本協会2014年度拠出金支援プロジェクト

2014年度拠出金は、368万9672円(30,551.23ドル)となりました。皆様の暖かいご協力、ご支援に心から御礼申し上げます。2015年5月13日にUN Women本部に送金いたしました。支援するプロジェクトは次の2つです。

- ①カンボジア竹細工プロジェクト：
268万9672円(22,271.03ドル)
「カンボジアの農村で持続可能な生計の選択肢を広げ、女性の経済的エンパワーメントを向上させる」プロジェクト
2012年からの継続支援により、カンボジア女性の経済的自立が進められています。
- ②女性に対する暴力撤廃信託基金：
100万円(8,280.20ドル)
いまだ暴力にさらされている女性は多く、世界中の女性の3分の1はその被害者といわれています。国連ウィメン日本協会では、引き続き暴力根絶のための基金に支援を送りました。

ネパール大地震緊急募金の受付

2015年4月25日、ネパールを襲った大地震が甚大な被害をもたらしました。UN Womenでは、被害を受けた女性、少女たちを支援するために、緊急募金を世界に呼びかけています。国連ウィメン日本協会では、これを受けて、日本全国からの募金を以下の口座で受け付けています。

三菱東京UFJ銀行 戸塚支店(635)
口座番号 1118955
口座名 特定非営利活動法人
国連ウィメン日本協会 特別募金

募金は、「女性のための最小限の日用必需品キット」「女性の安全を守り、煮炊きもできる太陽光発電のランプ、ラジオ」を被災地の女性、少女たちに届けるために使われます。

引き続き皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

UN Womenの動き

「He For She」キャンペーン 「Impact10×10×10」

—UN Womenが名古屋大学を選定

理事 渋谷典子

UN Womenは男女平等を達成するためには男性の後押しが必要だという認識のもと、昨年秋から「He For She」キャンペーンをスタートし、世界各国の元首や企業、大学のリーダーを10人ずつ選定するパイロット事業「Impact10×10×10」を実施。日本では、名古屋大学の松尾清一総長が世界の10大学の学長の1人に選ばれました。選定を受け、「Impact10×10×10」に関する事業内容と今後の展開等について名古屋大学にて記者会見が開催され、国連ウィメン日本協会も記者会見に同席しました。

「Impact10×10×10」に選定された名古屋大学は、いち早く学内に保育所や学童保育所を整備してきたほか、国際機関やグローバル企業で働く女性リーダーを育てる教育プログラムなどに取り組んできており、UN Womenはその実績を高く評価しています。今後は、2018年をめどに、男女平等社会実現のための研究拠点として、男女共同参画推進センター（仮称）を開設予定。さらに、女子学生のための効果的なキャリア支援、女性研究者の共同研究の機会提供という2つを軸に、戦略的なプログラムを展開するとともに、2020年までに、企業5社、5大学、10の公的外部資金の獲得、リーダーシップやメンターシップに関する20プログラムを実施することで、「He For She」キャンペーンを推進することを公約としました。

国連機関であるUN Womenが実施する事業に対して、名古屋大学総長というトップが確かなコミットメントを表明したことで、名古屋大学を中心として他の大学や地域、そして日本全体へと波及効果が広がるはず。国連ウィメン日本協会は名古屋大学と連携を深め、ともに「He For She」キャンペーンを推進していきます。



名古屋大学総長・前総長を囲んで
(左から4人目が松尾清一総長、3人目が濱口道成前総長)

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

「国連ウィメン日本協会北九州」は、2014年、設立20周年を迎えました。設立以来、協力協定団体の皆様から寄せられたご協力のおかげをもちまして、記念セレモニーや記念誌「UNIFEMからUN WOMEN(国連ウィメン)へ」の刊行を行い、大きな節目の年となりました。気持ちも新たに、今年度の事業がスタートしました。7月に、市立男女共同参画センター(ムーブ)で、



寄付金の大きな収入源となっていますムーブフェスタでのバザーを開催するなど、事業計画に基づき継続した活動や事業を行ってまいります。今後も関係団体の皆様との連携を図り、より充実した年にしたいと考えております。どうか皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

事務局 浅野俊一

国連ウィメン日本協会 大阪

2015年2月14日、国連ウィメン日本協会ネットワーク会議に参加しました。他の協力協定団体から活動報告等をお伺いし、自分たちの活動のあり方を見直すことができました。若い世代への働きかけなど、共通の課題もあり、協会全体で取り組む必要性も感じました。2015年2月28日には、国連ウィメン日本協会大阪の総会を開催しました。国連ウィメンの趣旨や活動の周知を徹底したうえではじめて収益があがるのではという意見が出され、活動の根本を



見直すとともに広報の重要性を感じました。総会後には、国連ウィメンのキャンペーンを扱ったDVD『女性に対する暴力にNO！アフリカをひとつに！』の上映会を行い、あらためて女性や女兒に対する暴力根絶の啓発の重要性を実感しました。

今年は、「北京+20」「国際女性年+40」という節目の1年です。国連ウィメン日本協会大阪でも、関連団体と連携して、チャリティーイベントを計画しております。

理事 伊藤裕美

国連ウィメン日本協会 堺

3月5日、国際女性デーイベントが堺市の主催で堺市女性センターにて開催されました。「アクティブ防災～女性と子どもを守るアクティブ防災のススメ～」をテーマにロー紀子さんにご講演いただきました。国連ウィメン協会堺では、このイベントの主旨に賛同し、当日はボランティアスタッフでも参加。特設会場では、UN Womenの活動の紹介と啓発パネル展示が開催されました。バザールコーナーでは、市内女性企業オーナーの商品を展示即売し、基金を募りました。

また、正会員である堺市女性団体協議会と協力のもと、ネパール大地震の募金活動も展開中です。



国連ウィメン日本協会 多摩

1月23日から10日間、モンゴルキルトのメンバー4人が来日。多摩会員の家に分宿。

ドームでの東京国際キルトフェスティバルを視察。デザイナーの2人は二度もあしを運び、世界各地のキルトを研究していました。今後より素晴らしい作品ができることを期待しています。

2月8日昭島市において総会がもたれました。全てが承認され2015年度の活動がスタートしました。最初の活動は、総会後のチャリティーコンサート、今

年はシャンソンから始まりました。参加された方々から、すごく得をした感じです、とご満足いただけ、今年も良いスタートが切れたと思っています。

会長 小川裕未

国連ウィメン日本協会 よこはま

2月15日、総会開催。総会後は恒例のランチとバザーの親睦会。この中で今年はノルウェー研修をした会員による報告もありました。子どもオンブズマン制度や女性の就業環境、男性の子育て休暇など興味深い内容でした。

国連ウィメン日本協会よこはま主催



国際女性デー2015 ～つながる輪 ひろがる和～

イラン映画「オフサイド・ガールズ」とトーク
～女子力で 社会を変える～

「オフサイド・ガールズ」2006年
ジャファル・パナヒ監督
第50回ベルリン国際映画祭
銀熊賞(主演女優特別賞)受賞
第7回東京フィルメックス
4thフェスティバル(観客賞)受賞
第17回ユナイテッド国際映画祭
アムステルダム国際映画祭
経産省作品賞受賞

「女の子だって、
サッカーモスタジアム
で観戦したい！」

イランで、サッカーは国民的なスポーツ。男性のみならず、女性もみんなサッカーが大好き。けれど、女性がスタジアムで男性のスポーツを観戦することは法律で禁止されている。女性は専用のスタジアムで、女子サッカーしか観戦ができないのだ。そんな中でも、イラン代表の2006年ドイツワールドカップ出場をかけた大事な一戦が、首都テヘランで行われるとなれば、いくら女だからといってテレビの前でじっとしてなんかいられない！

少女たちが考えた策—それは、「男裝」だった・・・

講師の先生のお話を聞きながら、
一緒に考えてみませんか。



2015年 3月8日(日) 13:00～16:30

フォーラム南太田

(男女共同参画センター横浜南 南区南太田1-7-20)
(京急南太田駅徒歩3分、横浜市営地下鉄吉野町駅徒歩7分)

◆案内は裏面

◆参加費 500円(当日) ◆定員 100名
◆お申込 1/18(火)より先着順受付開始
電話、Fax、Eメールで、
国連ウィメン日本協会よこはま事務局へ
Tel/Fax 045(869)6787
Eメール: unwomenyokohama@extra.ocn.ne.jp

◆保育 1歳半～未就学児、事前予約制、有料
「こどもの部屋」に直接申し込み 045(714)2665

プログラム

第一部 映画とトーク 13:00
映画 「オフサイド・ガールズ」
トーク 山崎 和美さん(横浜市立大学 准教授)
「イラン映画に見る女性:イスラーム法に
基づく社会規範と現状打破のための闘争」
第二部 バザーと交流会 15:45
参加団体(7団体)の手作り品の販売と交流
アジアの女性と子どもネットワーク
FRN ファイバーサイクル ネットワーク
(特活)W211 ジャパン
チーム ピース チェレンジャー
ほねほね (南区地域活動支援センター)
(一社)国際女性教育振興会神奈川東支部
国連ウィメン日本協会よこはま 16:30

主催: 国連ウィメン日本協会よこはま 共催: フォーラム南太田(男女共同参画センター横浜南)
後援: (特活)国連ウィメン日本協会、(一社)国際女性教育振興会神奈川東支部、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

女性デーのチラシ

3月8日、今年で8回目となる国際女性デーイベントを開催。イラン映画「オフサイド・ガールズ」の上映会と山崎和美横浜市立大学准教授による「イラン映画に見る女性」のトークを行いました。映画はイランの女性問題というシリアスな題材を盛り込み、ユーモア満載の心温まるドラマで、数々の賞を受賞している名匠ジャファル・パナヒ監督の作品。今現在、世間を騒がしているテロなどイスラーム圏への関心の高まりからか、会場は満席の参加者でした。トークでは、映画の背景を糸口に様々な方向からの解説、多様性のある見方、考え方を示唆して頂き、中東社会への理解を深める良い機会となりました。

会長 樽谷文代

国連ウィメン日本協会 東京

2月4日(水)13時30分より、津田塾大学同窓会会議室に於いて2015年度国連ウィメン日本協会東京の総会を開催しました。2014年度の事業および会計報告並びに2015年度事業計画および予算が承認されました。

その後、総会記念講演として、目黒依子氏(上智大学名誉教授・国連ウィメン日本協会理事)に「ジェンダー平等への道:2015年の世界と日本」と題して、国際的視野に立ったお話を伺いました。次いで、ビデオ「ハイチの女性・女兒に対する暴力:内なる敵」を上映いたしました。

募金集め活動として、現在決まっていることは以下の通りです。

- ① 5月31日(日)「上智大学・ソフィアンバザー」。
- ② 6月18日(木)「根来加奈ソプラノ・チャリティーコンサート」(ルーテル市ヶ谷センター)14時開演。
- ③ 7月28日(火)連続講座第1回「美術とジェンダー」講師:西山千恵子(津田塾大学同窓会会議室)13時30分開会)。

会長 安陪陽子

国連ウィメン日本協会 さくら

2015年4月25日にネパールを襲った大地震。さくらでは、数々の震災支援を行ってきた経験を活かして、今回も「すぐやる課」を立ち上げました。支援の第一陣は、日頃から集めていた鉛筆や文具類。地震から一週間で、支援の品が事務所に続々と持ち込まれました。子ども達の喜ぶ笑顔が思い浮かぶような色とりどりの可愛い鉛筆。その一本ずつを丁寧に揃えて本数を数えたのは若手メンバー達。心のこもった文具類を日本ネパール女性教育協会山下泰子先生にお届けしました。これからも「身近な情報を便りに」をモットーに現地に寄り添い、同苦して絆の輪を広げ、今後も第二弾、三弾と更に支援をして参ります。

広報部



事務局からの報告

■リーフレット「女性のエンパワー 一人ひとりのエンパワー 思い描いてみよう!」を作成しました。



国連ウィメン日本協会では、UN Womenが「北京+20」キャンペーンの一環として作成した「Picture It!」の日本語版を、「女性のエンパワー 一人ひとりのエンパワー 思い描いてみよう!」として作成しました。

次のホームページからもダウンロードしていただくことができますので、ぜひご活用ください。

http://www.unwomen-nc.jp/page_id15

■賛助団体への加入をお願いします。

国連ウィメン日本協会は現在、賛助団体の増強に力を入れています。賛助会費は、寄付控除とおなじ特典があるため、企業等に加入をお願いしています。国連ウィメン日本協会を通して、女性支援をお考えの企業等の皆様、ぜひ、事務局にご連絡ください。

■国連ウィメン日本協会2014年度決算報告

(2014年1月1日～12月31日)単位:円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,770,000	拠出金	3,689,672
事業収入	0	事業費	4,490,513
寄付金収入	5,334,006	管理費	1,318,532
その他の資金繰入	1,850,000		
受取助成金	0		
雑収入	520		
当期収入合計	9,954,526	合計	9,498,717
その他資金			
■収入の部		■支出の部	
利息	1,005	一般会計に繰出	18,50,000
当期収支差額	△1,393,186		
前期繰越収支差額	10,719,553		
次期繰越収支差額	9,326,367		

■寄付者一覧(前回掲載以降2015.6.3現在)

国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会多摩 湯浅弥太郎 河合亮平 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会北九州 榎山敦久・幸恵 国連ウィメン日本協会大阪 岩田喜美枝 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会東京 ブックオフコーポレーション(株) 池田路子 ビューティショップK 群馬婦友会 高屋淳彦 彩歩の会 岡島敦子 全国友の会 齋藤京子 北井久美子 国際ソロプチミスト京都 酒井真喜子 竹崎裕子 国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン タルボットジャパン(株) 鹿野京子

■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2015.6.3現在)

三輪敦子 (株)グッドバンカー筑紫みずえ (公財)京都市男女共同参画推進協会 佐賀奈穂 豊島香 大澤貴子 桜井真由美 柳瀬満利子 奥田美智代

■正会員団体19団体(2015.6.3現在)

〈団体〉(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 全国友の会 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会 国際ゾンタ26地区 (一社)大学女性協会
〈企業〉イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業(株) (株)セブン&アイ・ホールディングス

■正会員個人40名(前回掲載以降2015.6.3現在)

清水あつ子 芳賀日登美 森真理子

■賛助団体13団体(2015.6.3現在)

〈団体〉(公財)京都市男女共同参画推進協会 久留米市男女平等推進センター (一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進協会 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団
〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー (株)フジテレビジョン

■賛助個人138名(前回掲載以降2015.6.3現在)

内永ゆか子 長谷川真一 台田加奈子 綿引禮子 平野和子 長谷川直美 清水照子

<認定> NPO法人国連ウィメン日本協会

旧称: UN Women日本国内委員会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分



郵便振替番号 00240-7-43928 NPO法人国連ウィメン日本協会